

創意工夫

高付加価値部品のトップブランドを目指して

第55期を振り返って



代表取締役
清水 克洋

23年10月にスタートした第55期ですが、1年を通して主力3部門ともに受注環境の大変厳しい1年となってしまいました。

工作機械部門に関しては、期初のところでは各社ともに「需要は底堅い」との表現をされるお客様が多かったものの、かつてのピーク時と比較すると工作機械の受注台数は大きく減少しています。また、国内景気の低迷の影響を色濃く受け、設備投資を控える風潮が現在も続いており、当社での受注状況も同じく停滞気味と言えます。

軸受部門に関しては、中国での土地バブル崩壊を発端とする景気減速の影響を大きく受けた受注状況となっています。業界としては工作機械同様低調な一方ではあるものの、昨年末から行ってきた取組みである「メキシコやタイ、チェコなどの不二越様の海外工場から直接受注を狙った営業活動」が成果を創出でき始めています。昨今の円安基調と日本の高い品質レベルによって、ローカル企業よりも安価で安定した製品をご提供するという戦略への理解が深まってきたと感じています。更なる受注拡大に向けて、引き続きQCDの向上に取組んでいきたいと考えています。

半導体部門に関しては、当初は23年夏

来期の見通し

頃から回復するという見通しでしたが、実際は回復が遅れ、今年の年明け早々に「年内は回復の見込みがない」とアナウンスがありました。ようやく夏頃から受注台数が伸びつつありますが、まだまだ不透明感もあり、他の2部門同様に苦戦の1年でした。

ようやく秋口からの回復局面が見えてきました。特に半導体事業のお客様について、来年1月には150台近くの生産を計画されています。来期はスタート直後から、生産統括部を中心として在庫製作を含めた納期遅延の予防に取り組む必要性があります。

また半導体需要の回復によって、当社第4工場に整備した5軸MCと複合旋盤、ならびに自動走行型ロボットによる自動化ラインの本格稼働が期待できます。現時点でも自動化ラインでの生産が増えてきています。来期は省人化に加えて、当初計画していた夜間や休日の無人運転も含めた稼働が必要となるような受注量も想定しており、ようやく真価を発揮できる時が来たと感じています。

自動化ラインの活用で省人化・無人化を実現し、その成果であるコスト低減から新たな受注へとつなげ、半導体部門での受注・生産量の拡充に取り組んでいきたいと考えています。来期の重点テーマは半導体であり、現在でも営業会議などで半導体を「一丁目一番地」とすることを明言しています。

次期中期経営計画について

第55期と同時に現行の中期経営計画が終了します。本来であれば、次期計画へと移行しますが、現在は国内外共に不安定な情勢が続くことから、当社が取るべき経営戦略を見極めるために、次期計画は来年3月の完成を目標に策定を進めております。

これまで皆さんに取り組んでいただいた5カ年計画では主に外注費や材料費、現場消耗品費など、出費の低減を最優先事項としました。各部門で協力し合い、出費の低減というテーマについては、一定の成果が創出できたと捉えています。

次期計画では新たに経営理念の浸透や営業面でのテーマも検討しています。計画策定後には社内展開し、共有していきますのでよろしくお願い致します。



【右写真】
現在第4工場
稼働している
自動化システム

各課で振り返る第55期

第55期を振り返って



製造1課
三浦課長

製造1課では消化工数89%以上、不適合件数20件以内を目標として1年間取り組んできました。結果は、消化工数が87%と目標にわずかに届かず、不適合件数は20件と目標達成となりました。

目標ごとに取り組みを振り返ると、消化工数に関してはベトナムBKと連携する機会が増えたことで指導の時間も増えたことや、新設備の立ち上げ、人員移動などが重なり、思うように改善することが出来なかつた点が反省です。不適合件数は目標達成となりましたが、更なる削減に向けて、引き続き取り組んでいきます。

その他、成長支援制度の発足を受けて一課では、課全体としての目標の他に課員一人ひとりの現在の工数消化率と不適合件数を把握してもらい、個人の目標やノルマを設定することで技術レベルの向上に努めました。

来期に向けて

指導の時間や設備の立ち上げは今後のための投資の時間でもあったので、来期は成果を発揮していきたいと思っています。特に新たに導入した立型CNC旋盤の加工時間短縮に向け、加工工具の制作や切削油の検討などメーカーと連携しながら様々な面での改善に取り組んでいきます。

第55期を振り返って



製造2課
沢村課長

製造2課では、消化工数率は目標達成となりましたが、不適合件数は目標プラス16件と大幅に未達という結果になりました。先期は目標件数から10件削減することができ、順調に不適合件数を削減できる見込みでしたが、大幅増という結果を受け、取り組みの再検討を図ります。

目標ごと振り返ると、消化工数率ではこれまでも行っていました。設備稼働率を向上させるために汎用フライス盤の加工予定が詰まっている時にはマシンングセンタも活用するなど、空き時間・待ち時間の削減に努めました。不適合件数は、昨年10月から3月までは達成圏内でしたが、4月から9月までの発生件数が目標未達になったため早急な対策が必要です。

来期に向けて

好調な消化工数率に関しては、来期も引き続き目標達成を目指します。新たなメンバーが加わったことをきっかけに、プログラム作成など課員の技術向上にも意識を向けていきたいと思っています。

不適合品件数は、半分以上は確認不足など防げたはずのミスによって生じていると感じています。以前行った基本動作の徹底に再度取り組み、再び目標以上の削減を目指します。

第55期を振り返って



製造3課
白川課長

製造3課は、消化工数率に関しては過去に例がないほど好調な推移を維持できました。課内の生産性向上だけでなく、受注量が増えた際には課の枠を越えて協力しあえたことが要因と感じています。納期遅れも減り、成果を実感しています。一方、不適合件数については、40件以内を目標としていましたが、61件と未達となりました。課員の技術レベルは上がっていると感じていますが、気のゆるみなど、集中力の持続が課題だと感じています。また、同じ内容のミスが目立っており、より一層気を引き締める必要性があります。

来期に向けて

これまでの傾向から、不適合件数が増加した際に、注意を払うように声掛けを行うとその直後は目に見えて発生件数が減るが、その後しばらくすると以前の状態に戻る、ということを繰り返すのではないかと予測されます。声掛けが無くても常に高い集中力を持続させられるようにしていきたいと思っています。

そのためにも成長支援制度に則して、まずは面談を行い、各人が取り組むべき課題を提示するなど、課全体の底上げにつながるような取り組みを行っていきたいと考えています。

各課で振り返る第55期

第55期を振り返って



営業課
竹原課長

兎にも角にも、受注確保を優先に一丸でスタートしました。日を追うごとに、各社需要ニーズの回復が先延ばしとなる見通しが強まり、目標の90%と未達で終わりましたが、期の後半は営業活動の見直しに着手しています。具体的には、半導体製造装置部品や車輛製造装置部品需要が旺盛な東北の展示会を軸に、新しい切り口を試行しました。

結果、地元紙からコメントを求められるほどの反響を呼び、多くの企業殿との商談機会に恵まれ、多くのご期待、ご要望や情報を得ることができました。主担当鈴木BLの丁寧な対応もあり、順々に受注成果を得始めたことは、今後の自信になります。得られた成果を従来主力部門顧客にも展開することで、底上げや厚みを拡げて、来期こそ受注目標を達成の意を強くしました。

来期に向けて

ようやく、半導体製造装置部品への需要に力強さが見え始めました。高い品質と確かな短納期対応を重ねて、信頼を勝ち取り、更なるご期待に応えていきます。加えて、他分野の顧客対応が疎かにならぬよう、チームワーク良く、進めて参ります。

第55期を振り返って



生産管理課
中河BL

生産管理課では、納期遵守率の改善、仕入れ先起因の不適合発生抑制、生産管理課起因の不適合発生抑制の3点を目標として取り組みました。特に不適合発生件数に関しては月1件という目標に対して、安定した達成は出来ず、仕事量に左右されたという印象でした。

自分自身の1年間を振り返ると、過去のトラブルを課で共有するために要点をまとめたワンポイントレッスンを作成し、再発防止に努めました。また、材料の手配ミスが発生した際には品番マスターに登録することでこちらも再発防止に取り組みました。

来期に向けて

生産管理課としての目標達成に向けて、今期行った取り組みを継続させ、来期はより良い結果が残せるように励みたいと思います。特に、不適合発生件数に関しては業務量の多寡に左右されずに、安定して目標を達成できる姿を目指したいと考えています。

同時に、自分自身の抱負として今期の反省点でもある協力工場での学びの機会作りのため、積極的に外出の機会を作って、取り組みたいと考えています。

第55期を振り返って



APS
北村BL

APSでは生産性向上を目指し、消化工数率の向上や不適合発生件数の削減、設備異常による長期稼働休止の予防に取り組みできました。現在APSは10台の加工機を保有しており、3名の課員が複数台担当し、加工しています。そのような状況においても、不適合品を発生させないためには集中力を維持しながら間違いない同一の品質を再現できる工程、標準書の整備が必要不可欠だと考えています。また、最新鋭の設備を導入することが生産性向上に直結するのではなく、いかに自動・無人での加工時間を有効に活用できるかが重要であり、その結果が消化工数率に反映されると捉えています。

来期に向けて

常日頃から設備の異常への早期対応や課内の作業状況確認時には、以前に不適合が発生した製品の担当者への声掛けなどを行ったことで、徐々に各人の生産性は向上していると感じています。一方、複数台同時稼働させていると人的ミスが発生する可能性が高くなります。航空機部品の受注増に備えるためにも、引き続き取り組みたいと思っています。



製造3課
高森さん

仕事をする上で大切にしていること

仕事をする上で大事にしていることは、「どう使われるか」を考えることです。図面通りに加工するということは大前提ですが、例えば、合わせ面があれば公差以上の平面度を意識する等、記載されていない、書き切れていない思いにまで汲んだ加工が出来ればと考えています。答え合わせがある訳ではないので、実際には不要なことかもしれないと思いますが、ただ図面通りに作業をしていくよりも良い効果があるのではないかと考えています。

もう一つは、「後工程の人が仕事をしやすいように」と心掛けることです。実際にはお客様への確認を要するため、図面に記載されている以上のことはできないということもありますが、お客様の立場になって考えるということが大事だと思っています。

勤続39年を振り返る

気付けば入社から39年が経ちました。今も先代にお世話になったことをよく覚えていますが、長いような短いような期間でしたが、振り返ると様々な加工事例や相談があったと思います。それらの経験が元になって、図面から何かしらを感じ取れるようになっていればと思っています。

仕事とは

生活をするために必要なことではありますが、これまでの39年間で振り返ると、よく遊びよく働いたという感想です。

次号のバトン

今回は製造部梅原BLにお伺いしたいと思います。製造部だけでなく生産管理課など様々な経験を経て、仕事に対してどのような思いがあるか聞いてみたいと思います。

石金ニュース!



ミニ四駆cup出場!

『G-1 GP 2024』

2024年11月30日(土)

13:30~15:30

ファボーレ太陽の広場にて開催!

今年もミニ四駆cupへの出場が決定しました。チームの紹介と意気込みを三浦課長にお伺いしました。

今年のチームメンバーは前田部長、中野さん、中川さん、菅原さんと三浦の計5名で参加します。

昨年の大会と比べると、より複雑なルールへと変更になりました。スピードを追求するだけではなく、デザイン性や重量も採点時に考慮されるようになったことで、ルールに合わせた設計や調整が必要になります。また、今回はタイヤも自社制作することで全てのパーツを自社で製作した機体で挑む予定です。

昨年は初戦敗退という残念な結果でした。今年はまずは初戦突破を目指して、チーム一丸となって頑張ります。大会当日は皆さんの応援をお待ちしていますので、ぜひ現地へお越しください。

石金ニュース!



happy wedding



左写真：
職場の皆さんからいただいた似顔絵、包丁、鼻毛切り

技術課 中野さんと総務課 表さんのご結婚報告と一言インタビューを掲載します。

Q.お互いの印象は?

表さん：第一印象で優しく感じていて、インターンシッププロジェクトの時に、改めて良い人柄だと思いました。

中野さん：入社した時にかわいらしい人が来たなと思いました。頑張っている姿も印象的でした。

Q.きっかけは何でしたか?

職場の方たちの後押しがきっかけです。一緒にいて波長が合うと感じました。